

光陵会会員33人が 風景など60点展示

県美ギャラリー

愛知、三重両県に三十六人の会員がいる絵画団体、光陵会の作品展「第六十回光陵展」(中日新聞社共催)が九日、栄の県美術館ギャ

ラリーで始まった。写真。十五日まで。

四十〜九十代の会員二十三人が、風景や人物などを題材にした油彩、水彩やパステル画六十点を展示した。基となった下絵や習作とともに展示している作品も多く、制作過程を垣間見ることができる。

同会は一九五九年、愛知学芸大(現愛知教育大)の卒業生を中心に発足。現在は日展や光風会に所属する作家を中心に研さんを続けている。事務局を預かる春日井市下原町の後藤勉さん(左)は「写実を基本としながらも、色の対比を重んじる者や線を大事にする者、面の構成を強調する者など



いろいろ。個性を感じ取ってほしい」と話した。